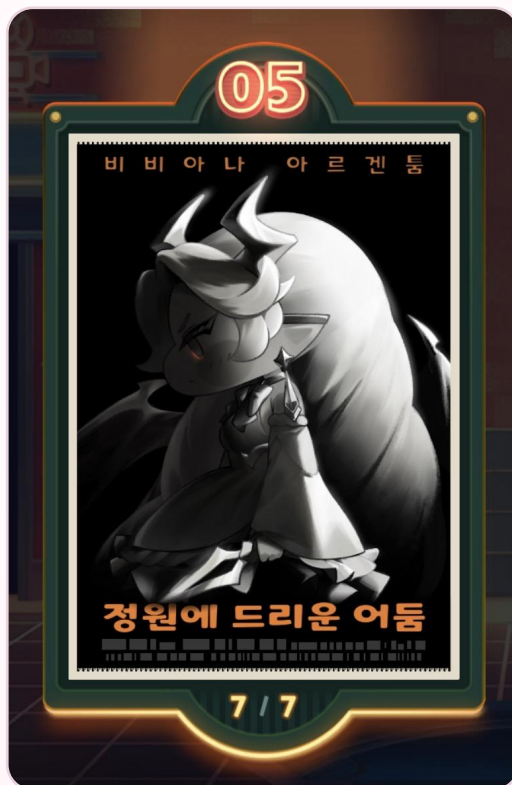


トリッカル・リバイブ 仮翻訳

# CHAPTER 5 庭に垂れ込める闇

第8章～第14章 日本語訳まとめ



## 収録章

第8章 地面の下の真実

第9章 再会した姉妹たち

第10章 集結する使徒たち

第11章 どこでも堂々と

第12章 続く危機

第13章 最後の導き手

第14章 新たな基準線

EPISODE  
8

## 第8章 地面の下の真実

教主

エレナ、ベリータ。連絡したらすぐここまで来てくれてありがとう。



エレナ

いいって、あたしたちの仲だろ。



エレナ

まあ、教主が急ぎだって言うなら、それなりの理由はあるんだろうし。



ベリータ

教主……大まかな話は聞いたが、本当に世界樹の根を確認するつもりなのか？

教主

うん。確認してみようと思って。



ベリータ

根の状態なら、我々魔女が定期的に確認している。



ベリータ

何か、別に気がかりなことでもあるのか？

教主

最後に根を確認したのはいつ？



ベリータ

お前が啓示を受けたと言っていた時だ。  
あの時、フリックルと一緒に直接根を見て確認した。

教主

啓示を受けた時か……

教主

パンジュに乗って出発する前だね。

教主

最近、魔女王国で何か変なことは起きてない？



ベリータ

変なこと？ たとえばどんな？

教主

理由も分からず眠ってしまった魔女とか、どこか具合の悪い魔女がいるとか。そういう……



ベリータ

特に報告は受けていない。

教主

ベリータ、最近体調を崩したことはない？



ベリータ

ん？ それはなぜ聞く？

教主

最近、世界樹の影響力がかなり弱まっている気がするんだ。



ベリータ

以前はよく伏せていたが、最近は健康な方だ。



ベリータ

おそらく、こまめに運動しているおかげだろう。



エレナ

教主。そろそろあたしたちにも情報を出してくれない？



エレナ

いつまでそうやって様子見してるつもりだ？



エレナ

あたしと魔女の女王サマだけを呼んだってことは、かなり重要な話なんだろう？

教主

それが……ここ数日の間に、王国で妖精が五人、突然眠ってしまったんだ。

教主

正確な原因は分からない。眠った妖精をいくら起こしても、目を覚まさないんだ。

教主

私は、この問題が世界樹と関係しているんじゃないかと思ってる。



エレナ

え？妖精たちが、起こしても起きないって？



エレナ

ちょっと待て。あたしの知る限り、妖精が深い眠りにつくこと自体は、もともとあるはずだけど。

教主

うん。でも今回は少し事情が違うんだ。

教主

普通、妖精たちが深い眠りにつく時は、自分でもそれを分かっているんだ。

教主

でも、今回の件は違うみたいで。

教主

それで失踪事件として届け出があって、私たちも調査してから初めて知ったんだ。

教主

私が心配しているのは……妖精たちが眠り始めたのが、まだ始まりにすぎないんじゃないかってこと。



エレナ

これからどれだけ眠るかも分からないってわけか。

教主

うん。だから二人を呼んだんだ。モナティアムでも、似たようなことは起きていない？



エレナ

まだ、そういう報告は受けてない。



エレナ

エルフがそんなふうには眠ることはなかったけど、  
あたたちもこの世界に留まっている以上、見過ごすわけにはいかなさそうだな。



ベリータ

世界樹が衰えたせいで、妖精たちが眠ってしまった、か……



ベリータ

先ほども言ったが、今のところ魔女たちの中に眠った者はいない。



ベリータ

とはいえ、教主の言う通り、根の方を確認してみた方がよさそうだな。



エレナ

教主は、この現象が世界樹の状態悪化のせいだと見てるんだろ？

教主

うん。私はそう考えてる。



エレナ

他の次元はどうなんだ？妖精たちが集団で眠ったとか、そういう事例はあるのか？

教主

いや。特に聞いたことはないけど……

教主

ちゃんと聞いてみたこともなかったし。

教主

急に他の次元の話をするのはどうして？



エレナ

何かおかしくないか？どうして、あたしたちの次元だけでこんな現象が起きてる？



エレナ

もしかして最近、R41次元と戦争した影響なんじゃないか？



エレナ

あの時、かなり危ない場面もあっただろ。



エレナ

世界を維持していた力が、あの時かなり消耗した。  
その反動で、今こういう現象が出てる可能性もあるんじゃないか？

教主

もしかしたら、そうかもしれないね。

教主

この機会に、世界樹の状態をちゃんと確認してみよう。



ベリータ

分かった。教主。

教主

こっちの根を確認してみるのがよさそうだ。



エレナ

それで、さっき通話で掘削ドローンを持ってこいって言ったわけか。



エレナ

すぐ始めよう。急いで損はないだろ？



ベリータ

エルフ、世界樹の根を傷つけないよう、慎重に掘るのだぞ。



エレナ

はいはい。あんまり横から口出しされると、手元が狂うかもよ？

教主

何か手伝えることはある？



エレナ

あ、必要ない。この程度、あたしが扱えないわけないだろ。

教主

分かった。じゃあお願いするね。



エレナ

さて、そのご立派な世界樹様の根でも見せてもらおうか。



エレナ

妖精ならともかく、魔女たちがこういうのを許すなんて意外だな。

ドゥルルルッ、ドゥルルルッ!!

しばらくして――

教主

終わったの？



エレナ

まあ、だいたいはな。状態を確認するくらいならできるはずだ。

教主

よし、すぐ入って確認してみよう。



ベリータ

こ、こんなことが……



エレナ

何だ、これ！根が完全に腐ってるじゃないか！



エレナ

世界樹は神木なんだろ？これじゃ、もう朽ち木も同然だ。  
根が腐って、そこら中に悪臭が充満してる。

教主

私にも、そう見える……



ベリータ

ありえない……世界樹の根が腐っているなど!!



ベリータ

何か、我々が勘違いしているはずだ。



ベリータ

世界樹の根がここまでの状態になったことなど、今まで一度もなかった。



エレナ

おい、魔女の女王さま！ 現実逃避しないで、目の前の状況を見ろ。



エレナ

あんたたち、本当に定期的に確認してたのか？

教主

少し落ち着いて、エレナ。

教主

もしかしたら……この前の騒ぎの時、ヤドリギがエルフィンに力を分け与えたせいかも……？



ベリータ

教主……すまないが、もう少し詳しく調べる必要があるようだ。



ベリータ

エルフ市長、別の根も観察したい。もう少し地面を掘ってもらえるか？



エレナ

できるけど……別の場所だからって無事とは思えないぞ？



ベリータ

だからこそ、なおさら確認しなければならない。



エレナ

はあ、分かった。こっちを掘ってみる。



ポーラン

教主様！ポーランです！そちらにいらっしゃいますか？

教主

うん、ここにいるよ！どうしたの？



ポーラン

至急お伝えしたいことがあります！お時間よろしいでしょうか？

教主

エレナ、ベリータ。私、少しポーランに会ってくるね。

教主

何か見つかったら教えて。



エレナ

ああ。任せておけ。

教主

ポーラン。いったい何があったの？



ポーラン

それが……司祭長が突然眠ってしまわれました。



ポーラン

眠った司祭長は、「連続ぐっすり事件」の妖精たちとまったく同じ症状を見せています。

教主

えっ？ ネルが……？

EPISODE  
9

## 第9章 再会した姉妹たち



ヴィヴィ

まあ、掃除をしてからまだそう経っていませんのに、どこもかしこも埃だらけですわ。



ヴィヴィ

いくら掃除をしても、終わりが見えませんわね。



ヴィヴィ

本当に、皆さま清潔というものを軽く考えすぎですわ。



ヴィヴィ

ん？



クロエ

ヴィヴィ！ ヴィヴィーー!!!



ヴィヴィ

クロエ……？



クロエ

はあっ、はあっ……今、掃除なんかしてる場合じゃないってば！



ヴィヴィ

クロエ、あなたがどうしてここに?! まさか、わたくしに恨みを抱いて……



クロエ

はあ？ そんなわけないじゃん！ 出来は悪くても、あんたはあちしの姉さんでしょ！



クロエ

そんなことしてる場合じゃないの！



クロエ

銀石ちゃんが盗まれたんだってば！



クロエ

エルフ会長とハサミの精霊が、銀石ちゃんを盗んでいったの！



ヴィヴィ

な、なんですって?! 銀石公がさらわれたんですの?!



ヴィヴィ

え、エルフ会長？ エルフ会長とはどなたですの?!



クロエ

アイシアだよ！ フロストノヴァの会長！



クロエ

あいつが司祭長を襲って、卵を盗んで逃げたんだってば！



ヴィヴィ

アイシア……ううっ！ お金で卵を買うなどと言っておいて、とうとう！



ヴィヴィ

絶対に許せませんわ！ エルフ会長は今どこにいますの？



クロエ

あちしも正確には分からない。聞いた話だと、フロストノヴァへ向かうって言ってた。



ヴィヴィ

……少し待ってくださいませ。あなたはどのようにそれを知っていますの？



クロエ

あちしが見たから！ とうにか止めようとしたけど、逃がしちゃったの！



ヴィヴィ

……………



クロエ

あちしはひとまず教主に連絡してみる。



クロエ

教主の番号は……あった！

案内音声

ただいま通信状態が良くないため、接続できません。

案内音声

……そんなあなたのためにご用意した、プレミアム月額サブスクリプション！ 相手が精霊山の湖の底にいてもつながります！ 今すぐお試しください！



クロエ

はあ？ 何このウソ広告！



クロエ

教主は何してるのさ。どうして連絡に出ないわけ？



クロエ

直接探すしかない！



クロエ

一緒に行こ、ヴィヴィ。教主に話せば、きっと助けてくれる！



ヴィヴィ

……わたくしはモナティアムの方へ行ってみますわ……



クロエ

モナティアム？ モナティアムのどこへ？



ヴィヴィ

シオン姉さんが働いているコンビニですわ。



クロエ

教主に助けを求めた方がいいんじゃない？



ヴィヴィ

いいえ……クロエ。



クロエ

はあ？ 何それ。まさか、まだ教主が苦手なの？



ヴィヴィ

いいえ。それよりも……



ヴィヴィ

嫌な……予感がするんですの……



クロエ

嫌な予感？



ヴィヴィ

何か、おかしくありませんこと？



ヴィヴィ

正体が露見しているのに、エルフ会長が銀石公をさらったのもおかしいですし……



ヴィヴィ

……何より、目的がまったく見えてこないんですの……



ヴィヴィ

それに、わたくしが教団にいると知りながら、こんな真似をするなんて……



ヴィヴィ

状況を知れば教主様が動くでしょうし、教主様と親しいエルフ市長も、フロストノヴァに圧力をかけるのではありませんこと？



ヴィヴィ

フロストノヴァは、その後始末をどうするつもりなのか……



クロエ

あいつ、そこまで考えてなさそうだけど？



ヴィヴィ

もし、後始末をする必要がないのだとしたら？



クロエ

はあ？



ヴィヴィ

目的は分かりませんが、後のことを考えずに動いているのは確かですわ。



ヴィヴィ

あるいは、エルフ市長よりも強力な後ろ盾があるのかもしれない。



ヴィヴィ

いずれにせよ、わたくしはモナティアムへ行ってみますわ。



クロエ

じゃあ、あちしも一緒に行く。



ヴィヴィ

え？ わたくしと一緒にいくとおっしゃるの？



クロエ

そうだよ。急いだ方がいいでしょ。



ヴィヴィ

分かりましたわ。共に参りましょう。



シオン・ザ・ダークブレット

ヴィヴィ！ 何事だ？ 急ぎだというから、連絡を受けてすぐ出てきたが……



シオン・ザ・ダークブレット

んん？ クロエではないか？



クロエ

……久しぶり、姉さん……



シオン・ザ・ダークブレット

そうだな……久しぶりだ……



ヴィヴィ

あの……お二人、何かありましたの？



ヴィヴィ

何だか、少し気まずそうに見えますけれど？



クロエ

いや、別に何もなかったけど？ ゼーんぜん気まずくないけど？



シオン・ザ・ダークブレット

そ、そうぞ〜。私もクロエに対する感情など本当にひとつも。まったく。1ミリも残っていないからな〜。



クロエ

はあ？ 何それ。その言い方、絶対すねてるじゃん。



シオン・ザ・ダークブレット

はっ、何を言う。クールでシックなダークブレットは、そんなシスター同士のアクシデントになど微動だにしないのだ。



ヴィヴィ

いったい何があったんですの？



シオン・ザ・ダークブレット

まあ、色々あったのだ。



クロエ

そう。まあ、色々あっただけ。



ヴィヴィ

.....



ヴィヴィ

本当に、姉妹そろって何をしていますの。



ヴィヴィ

姉妹同士で揉めているわけではありませんわ！



クロエ

ヴィヴィの言う通り。今はそんなことしてる場合じゃないって。



シオン・ザ・ダークブレット

んん？ 何があったのだ？



ヴィヴィ

アイシアが銀石公をさらいましたの。



シオン・ザ・ダークブレット

何だと？ アイシアが銀石をさらっただと？



シオン・ザ・ダークブレット

いつだ？ どうしてそうなった？ 教主には話したのか？



クロエ

ヴィヴィが奉仕してる間、司祭長が銀石ちゃんを預かることになってたんだ。



クロエ

でも、それをアイシアがどうやって知ったのか、司祭長を襲って銀石ちゃんを連れていった！



クロエ

教主には電話したけど、つながらなかったから、そのまま来たの。



シオン・ザ・ダークブレット

連絡がつかなかっただと？ 教主はどこにいる？



クロエ

そんなの、あちしが知るわけないでしょ。



シオン・ザ・ダークブレット

よりによって、こんな大事な時に……



シオン・ザ・ダークブレット

教主の助けは期待しにくいかもしれんな……



シオン・ザ・ダークブレット

少し待て。落ち着いて状況を整理しよう。



シオン・ザ・ダークブレット

アイシアはなぜ銀石をさらった……？



シオン・ザ・ダークブレット

竜族の卵が、なぜ必要だったのだ……？ 金が目的ではないはず……



クロエ

ねえ、姉さん。



シオン・ザ・ダークブレット

ん？



クロエ

もう突っ込もう。



シオン・ザ・ダークブレット

え？ 待て。突っ込むとは、正面からか？



クロエ

そう。正面から突っ込むの。



シオン・ザ・ダークブレット

お前、フロストノヴァが何かは分かっているな？



クロエ

はあ？ それくらい分かってるって。モナティアムの大企業でしょ。



シオン・ザ・ダークブレット

なら、大企業の警備がどれほど厳重かも分かっているはずだな？



クロエ

当然でしょ！ まさか知らないと思ってた？



シオン・ザ・ダークブレット

それで正面突破するつもりか？



クロエ

こうやって悩んでる時間があるなら、何かした方がいいでしょ。指くわえて待ってるつもり？



シオン・ザ・ダークブレット

それは違うが、しかし……



クロエ

あちしとシオン姉さんが一緒なら……フロストノヴァの警備くらい突破できると思うんだけど？



シオン・ザ・ダークブレット

……一緒なら……



クロエ

姉さん、モナティウムではけっこう有名な傭兵として活動してるでしょ。



クロエ

それに、あちしとセバスチャンもいるなら、やってみる価値はあるんじゃない？



ヴィヴィ

お待ちなさい！クロエ！なぜわたくしを外して話していますの？



ヴィヴィ

わたくしも同行しますわ！かつては、わたくしも竜族の序列二位まで上り詰めた身ですよ！



クロエ

ヴィヴィ、あんた執行猶予中でしょ！



ヴィヴィ

それがどうしたと言うんですの！銀石公の保護者はわたくしですわ！



ヴィヴィ

姉妹たちがこうして動くのに、わたくしだけ抜けるわけにはいきませんわ！



シオン・ザ・ダークブレット

……法的には、正当防衛と緊急避難が認められる可能性は高いが……



ヴィヴィ

仕方ありませんわ！今はあれこれ選んでいる場合ではありませんもの！



シオン・ザ・ダークブレット

う……やむを得ないか。分かった、行こう。こうなったら我らだけで行ってみるぞ。



シオン・ザ・ダークブレット

誘拐事件で、初動のゴールデンタイムを逃すわけにはいかないからな！

EPIISODE  
10

## 第10章 集結する使徒たち



教主

ネル……



ネル

すやすやー

教主

何があったんだ？

ネルの額に手を当ててみる。  
ネルの身体が、今回眠ってしまった妖精たちみたいに冷たい……

教主

ネルが倒れる直前までの記憶が流れ込んでくる。

教主

こうやってやられたのか。まさか……麻醉銃みたいなものを撃たれた？

教主

でも、麻醉銃を撃たれたくらいで、こんなに全身が冷たくなるものなのか？

教主

ネル、起きて！ エルフィンが書き取りで100点を取ったよ！



ネル

すやすやー

教主

ネル、今日は低糖質マシュマロマカロンを作ったんだ。一緒に食べよう！



ネル

……………

教主

ネル、そんなふうには寝てばかりいると、くすぐるよ？

教主

私はちゃんと警告したからね！ 本当にくすぐるよ？

こちょこちょー



ネル

……………



ポーラン

教主様、その……無駄のようです……



ポーラン

私も何度も起こしてみましたが、目を覚ましませんでした……

教主

ねえ、ポーラン。妖精たちが一度深い眠りについたら、どれくらい眠り続けるの？



ポーラン

一般の妖精の場合は分かりませんが、司祭であればかなり長く眠ります。今でも眠っているくらいですから。



ポーラン

ですので、ジョアンが目覚めた時は、かなり驚いたと記憶しています。

教主

期間で言うと、どれくらい？



ポーラン

そうですね……断言はできませんが、長い場合は数百年眠ることもあります……

教主

……長ければ、数百年……



ネル

うん、今日の午前の仕事は全部終わりましたし、午後は倉庫の方でも点検しましょうか。



エルフィン（王道）

ネル、ネルー!!



ネル

あ、女王様！ お呼びですか？



エルフィン (王道)

これ見て！私、書き取りで100点取ったんだ！



ネル

わあ！まあ！本当ですね？素晴らしいです、女王様！



ネル

これは額に入れて、特別に保管しておかなければなりませんね！



ネル

内容を見る限り、私でも迷ってしまいそうな難しさですよ?!



エルフィン (王道)

えへへ！驚くのはまだ早いよ！



エルフィン (王道)

私、絵日記もためずにちゃんと書いたんだから！



ネル

さすがです、我らが女王様！信じておりましたよ！



エルフィン (王道)

それに、今日来た陳情も完璧に処理したよ！



ネル

では、一度見に行きましょうか？



エルフィン (王道)

うん！いくらでも見て！

しばらくして――



エルフィン (王道)

どう？ すごく上手に処理できてるでしょ？



ネル

ああ、我が女王様は本当に立派になりましたね！



ネル

素晴らしいです！ もう国のお仕事も、すっかり安心してお任せできますね！



エルフィン (王道)

えへへ！ 当然でしょ！ 私に任せてよ、ネル！



エルフィン (王道)

あ、ネル！ 私、明日誕生日なの知ってるよね？



エルフィン (王道)

誕生日パーティーしよう！ 私とネルと姉さんと、ジョアンとポーランを呼んでパーティーしよう！



ネル

いいですね！ 民たちも王宮へ招きましょう。



エルフィン (王道)

うん！ それからシュパンも、エシュールも、マリーも、マヨも、みんな呼ぼう！



ネル

いいですね！



ネル

でも……誰か忘れているような気がしませんか？



ネル

背の高い誰かが、抜けているような……



エルフィン（王道）

背の高い誰か？ リコッタ？



ネル

いえ、リコッタさんではなく、他の誰かが……



ネル

いつも私と女王様のそばで……守ってくださっていた誰かが……そんな方がいたような気がするんです……



エルフィン（王道）

ポーランじゃないの？ それじゃなかったら分からないけど……？



エルフィン（王道）

大事な人なら、そのうち思い出すんじゃない？



ネル

……………



エルフィン（王道）

ネル、泣いてるの？ どうして泣いてるの？ わ、私、何か悪いことした？



ネル

え？ これは、私が泣いたわけではないのですが……



ポーラン

教主様！ 大丈夫ですか？

教主

ネル、今は眠っている場合じゃないんだ。



ネル (回想)

ご期待に応えられるよう、これからも努力いたしますね。教主様！



ネル (回想)

でも……でもあなたは司祭でもないでしょう、ジョアン！  
教団の主を名乗りながら、どうしてこんなことができるんですか!!



ネル (回想)

そんな情けないものを見るような目をしないで、普通に見てくださいってば。  
女王様が本当にきちんと処理されたので、私が保管しているんです！



ネル (回想)

教主様の意志を実現するための聖戦を起こすのです!!!



ネル (回想)

サプライズ！

教主

一人で見なきゃいけない仕事が多すぎるし、まだ君がいないと私も全然足りないんだ……

教主

エルフィンだって！エルフィンだって君を必要としてる！

教主

だから、お願いだから起きてよ、ネル。

教主

もう起きてってば……!!!



ネル

女王様、今、何か聞こえませんでしたか？



エルフィン（王道）

何の話？ 幻聴でも聞こえたの？



ネル

……………



ネル

……思い出しました……



エルフィン（王道）

思い出したって、誰を？



ネル

教主様です。



エルフィン（王道）

教主？ それって誰？



ネル

申し訳ありません、女王様。私、行かなければならないようです。



エルフィン（王道）

行行って？ どこへ行くの？ 私の誕生日パーティーは？



ネル

教主様が、私を探しておられるんです。



エルフィン (王道)

……ネルにとって、大切な人なの……？



ネル

はい。女王様と同じくらい、大切な方です。



ネル

今の女王様は、私がいなくても立派に国を治められるでしょうけれど、教主様は私がいないと、とても困ってしまいますから……



ネル

それに、向こうの世界の女王様にも、私が必要なはずですよ。



エルフィン (王道)

向こうの世界の女王様？ それって誰なの？



エルフィン (王道)

ネル、さっきからどうして変なことばかり言うの？



ネル

向こうの世界にも、女王様とそっくりな方がいらっしゃるんです。



ネル

まだ書き取りもたくさん間違えて、絵日記も期限通りに書かず、たくさんためてしまっている女王様が。だから、私が必要なはずですよ。



エルフィン (王道)

そっか……よく分からないけど……



エルフィン (王道)

大切な友達がネルを探してるなら、行かないとね！



ネル

私がいなくても、どうか立派な女王様になってください。女王様！



エルフィン (王道)

うん！頑張ってみる！

ぱちっ——



ネル

あ、あれ……教主様？

教主

ネル？ ネル、起きたの?!



ポーラン

司祭長、目を覚ましたんだな！



ネル

あら？ ポーランもいるんですね？



ネル

教主様、目元が赤いようですが、大丈夫ですか？

教主

よかった……ネル、私は……



ネル

私は大丈夫です、教主様……



ネル

何だか、不思議な夢を見ていたような気がしますけれど……

ごそっ——



ネル

うーん、何がどうなっているのか……



ネル

ここは……教団の地下ですよ？ 私はどうしてここにいたのでしょうか？



ネル

まさか、私が眠っていたんですか？

教主

ポーランが裏路地で眠っていた君を見つけて、ここまで連れてきてくれたんだ。



ネル

私が裏路地で眠っていたんですか？ あっ！



ネル

女王様！ 女王様は?!

教主

エルフィンがどうしたの？



ネル

女王様が、裏路地の街灯に頭をぶつけて倒れたと聞いたんです！



ネル

ど、どうしましょう？ 我らが女王様が！



ポーラン

落ち着け、司祭長！ 女王様は今、クレープとおやつを召し上がっている。



ネル

女王様が……クレープとおやつを……？



ポーラン

ああ、女王様は無事だ。

教主

ネル、いったい何があったの？



ネル

それが……お昼を食べようと思って、ヴィヴィさんから預かっていた卵と一緒に、エシュールのパン屋へ向かっていたんです。



ネル

その時、一本の電話がかかってきて、女王様が倒れたと聞いて裏路地へ向かったのですが……



ネル

……その後のことは、まったく覚えていません……



ポラン

状況から見るに、誘い出されたようだな。



ネル

そういえば、銀石公は？

教主

銀石公？ ヴィヴィの卵のこと？



ネル

はい！ そうです！ ヴィヴィさんが奉仕をしている間、面倒を見てほしいと頼まれていたんです。

ピロン！

教主

ちょっと待って、メッセージが来た。

教主

ん？ 不在着信もあるじゃないか？  
クロエとシオンからの不在着信が、合計七件？  
今日は慌ただしくて、連絡が来ていたことに今まで気づかなかった。

すっ——

システム

クロエのメッセージ：教主、電話に出ないからメッセージを残すわ。今、アイシアがヴィヴィの卵を盗んで、フロストノヴァへ逃げたの。見たら連絡して！

システム

ダークプレットのメッセージ：教主。エマージェンシーだ！ 今、フロストノヴァで銀石がキッドナップされたシチュエーションが発生した！ 教主の助けが切実に必要だ！

システム

ダークブレットのメッセージ：とりあえず我ら姉妹はフロストノヴァへ向かう！遅れてでも合流せよ!!

教主

シオンとクロエはフロストノヴァへ向かったんだね。

教主

ネル、ポーラン。私はフロストノヴァへ行かないと。  
クロエとシオンが、そこで私を待ってる。



ポーラン

教主様、私も一緒します。

教主

いや、ポーランは警備隊の仕事を続けて。  
下手に警備隊まで動員すると、向こうにも誤解される。  
アイシアは私の使徒でもあるから、私に対話でうまく解決してみるよ。



ポーラン

教主様がそうおっしゃるのであれば……分かりました！



ネル

教主様、私はついていきます！



ネル

卵を盗まれてしまったのは、私の責任ですから！

教主

大丈夫なの？



ネル

はい！問題ありません！

教主

分かった。すぐ出発しよう。

タタタッ！

—次回—

EPISODE  
11

## 第11章 どこでも堂々と



アイシア

よし、そろそろ荒野へ行く準備でもしようか。



シーザー

で、そこには何があるっていうんだ？



アイシア

あんたは知らなくていい。



アイシア

あんたは、私が命じたことだけちゃんとやってればいいの。



シーザー

ちっ！その口の利き方、気に食わねえな！



アイシア

ねえ！秘書、荒野へ出発する準備はできた？

エルフ秘書

はい！ほぼ完了しております。最後のチェックリストだけ確認すれば……



シーザー

何だ？急にサイレン？

エルフ秘書

会長！大変です！



アイシア

何？何をそんなに騒いでるの？

エルフ秘書

それが……フロストノヴァに、侵入者が押し入ってきました。



アイシア

侵入者？また有給中の社員が、自主出勤しに来たの？

エルフ秘書

そうではないようです！組み合わせが少々おかしいです！



アイシア

組み合わせ？誰なの？

エルフ秘書

妖精と竜族と幽霊です！



アイシア

何よ、その珍妙な組み合わせは。



アイシア

そいつら、どこから侵入したの？

エルフ秘書

それが……正門から堂々と入ってきています!!



アイシア

はあ？正門？フロストノヴァの警備を舐めてるの？



アイシア

全員まとめて叩き出しなさい！ できなければクビよ！ クビ！

エルフ秘書

はい！ 承知しました！



シーザー

誰かは知らねえが、ずいぶん肝の据わった連中じゃねえか！ 気に入ったぜ！  
ふふははっ！ はははっ！

エルフ警備員

な、何だ？ 侵入警報のサイレン？

警備チーム長

侵入者はどこだ？

エルフ警備員

入口です！ 今、無理やり入ってきています！

警備チーム長

あいつら、昼間っから団体でぶどうジュースでも飲みすぎたのか？ 警備部隊を出せ！



シオン・ザ・ダークブレット

ほう？ これほどの歓迎とはな。



シオン・ザ・ダークブレット

ヴィヴィ、クロエ！ 皆、準備はいいか？



ヴィヴィ

わたくしは準備万端ですわ！



クロエ

うん！ あちしも！



シオン・ザ・ダークブレット

よし！ 思いきり暴れてやろうではないか！

エルフ警備員

止まれ！ 止まれ！ これ以上入るなら制圧する！



シオン・ザ・ダークブレット

おい！お前たちの会長を出せ!!

エルフ警備員

会長様はお前の友達か?! 出せと言われて出てくるか！



クロエ

もう全部蹴散らして、正面からぶつかろうって！

エルフ警備員

えっ？チーム長、奴らが突っ込んできます!!

エルフ警備員

止める！全員、下がるな！

エルフ警備員

武器を持っていない相手から制圧しろ！



ヴィヴィ

わたくしの方へ来るおつもりですか？覚悟はできていますこと？



ヴィヴィ

無防備だと侮るなら……ハ……ハックシュン！

エルフ警備員

うわっ！何だ、この銀色の液体は！

エルフ警備員

身体についたら熱が出て、目まいまで……！



クロエ

ザコはどいてってば！

エルフ警備員

うわああっ！ このクマのぬいぐるみは何だ?!



シオン・ザ・ダークブレット

この程度で我らを止められると思ったか？  
はははっ！ 片腹痛いわ！



シオン・ザ・ダークブレット

三人そろえば、天上天下最強パーティー！



シオン・ザ・ダークブレット

その気になれば、警備隊を全員リタ～イアさせることなど造作もない！ ということだ！



シオン・ザ・ダークブレット

はははっ！ あはははっ!!



クロエ

あ、姉さん！ そういう変なこと言うの、やめてって言ったでしょ！



クロエ

変な台詞で格好つけてる暇があったら、一発でも多く撃ちなよ!!



シオン・ザ・ダークブレット

う、うん、すまない。ちゃんと撃っているぞ。

エルフ警備員

ま、まさか！ 銃弾一発で三人倒れたぞ!!



ヴィヴィ

クロエ！お気をつけなさい！後ろに警備員が!!



クロエ

え？



シオン・ザ・ダークブレット

卑怯にも背後を狙うとは！だが、このダークブレットが始末したから安心するがいい！んはははっ！



クロエ

姉さん！ありがとう！



シオン・ザ・ダークブレット

姉妹とは、助け合うものだからな！

警備チーム長

何としても止める！テイザーガンを撃ってでも止めるんだ！

エルフ警備員

くらえ！『ライカ・ノヴァ・テイザーガン-2000』!!



シオン・ザ・ダークブレット

遅いぞ～！

警備チーム長

応援を呼べ！侵入者たちが強すぎる！応援を要請——



ヴィヴィ

そうはさせませんわ！ ハックシュン!!



シオン・ザ・ダークブレット

よし！ だいたい片づいた。すぐ突入するぞ！



シオン・ザ・ダークブレット

ここで時間をかけてもいいことはない！  
速戦即決で終わらせる！



ヴィヴィ

分かりましたわ！ 姉さん！



クロエ

うん！ 無駄に時間使うのはやめよ！



シオン・ザ・ダークブレット

皆、もう少しだけ踏ん張れ！



シオン・ザ・ダークブレット

ここを抜ければ、すぐ会長室に入れる！



シオン・ザ・ダークブレット

銀石も取り戻して、アイシアの鼻っ柱をへし折ってやろう！



クロエ

うん！今度こそ絶対に許さない！



ヴィヴィ

銀石公、もう少しだけお待ちくださいませ！

???

皆さん、そんなに急いでどこへ行くおつもりですか？



シオン・ザ・ダークブレット

何者だ?! 貴様は誰だ!!!



シーザー

よくここまで来たな。なかなかやるじゃないか。



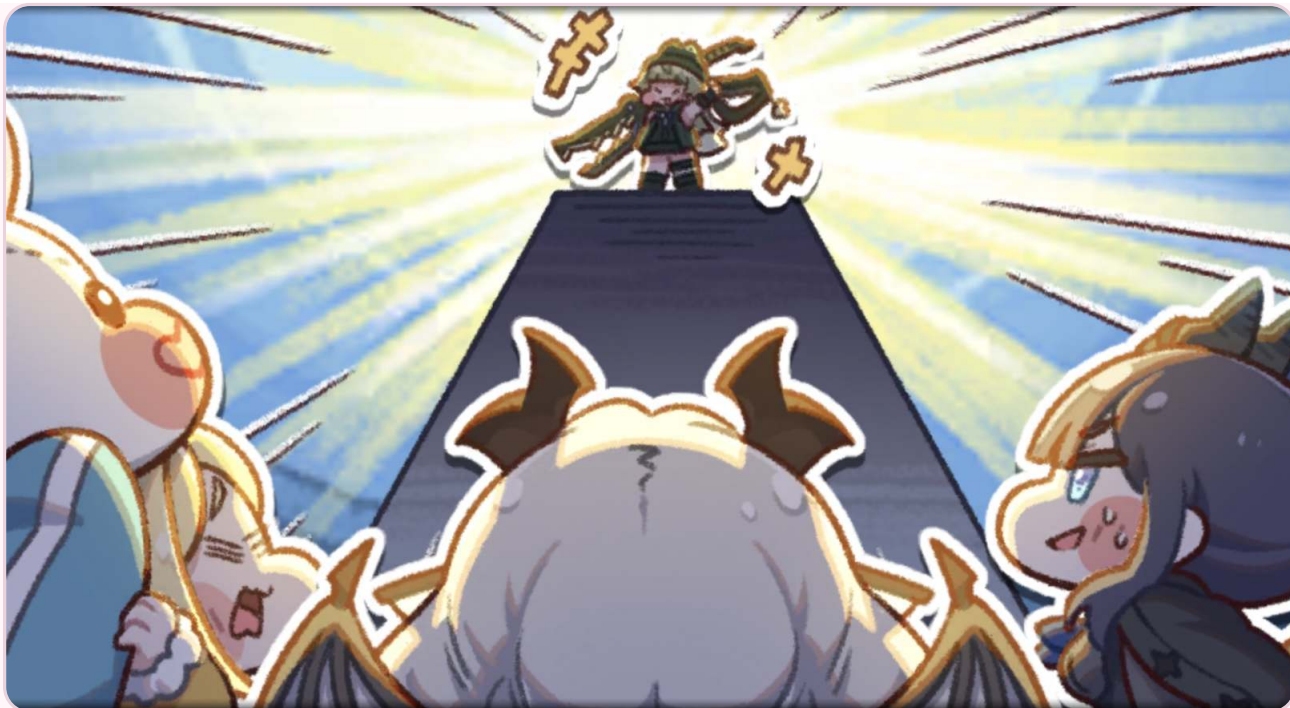
シーザー

だが、お前たちの快進撃もここまでだ。



シーザー

ここは最強、最悪、最凶のヴィラン！  
このシーザー様が守っているんだからな。あははっ！



シオン・ザ・ダークブレット

き、貴様はハサミの精霊、シーザー……!!  
くっ、久しぶりだな。シーザー。



クロエ

はあ……またあいつなの？



ヴィヴィ

ご存じの方ですか？



クロエ

まあ、あいつとは……色々あっただけ。



シーザー

おい、お前たち！ おしゃべりはそこまでだ！



シーザー

この先へ行きたければ、俺を倒してみせろ！ あははっ!!

EPISODE  
12

## 第12章 続く危機



シオン・ザ・ダークブレット

シーザー、最後まで我らの邪魔をするつもりか？



シーザー

当然だ！ それこそがヴィランのあるべき姿だ！



ヴィヴィ

いったい何があったというのです？



シオン・ザ・ダークブレット

え？ ああ……昔、スフィンクスを手伝って、あいつを逮捕したことがあるのだ。



シオン・ザ・ダークブレット

まったく！ あいつがダークネットのサーバー線を切ったせいで、ずいぶん苦労したものだ。



シーザー

因縁の相手ってのは、狭い道で出くわすものだ。



ヴィヴィ

ハサミの精霊！ 穩便に済ませているうちにお退きなさいませ！



シーザー

退けだと？ シーザー、道を譲るのはイヤザー、イヤザー♪



シーザー

ここを通りたければ、俺を倒せと言ったはずだが？



クロエ

はあ……ほんと、やることなすことムカつく。



クロエ

ねえ、シーザー！ 今度は覚悟しなよ!!



シーザー

いいぞ、いいぞ！ その気迫、気に入った！



シーザー

しかも、未熟な自分を認めて仲間まで連れてくるとは！



シーザー

駆け出しヒーローにしては、なかなかやるじゃないか。



シーザー

だが、残念だったな～。この俺のハサミが、お前たちをまとめて切り刻むのだから！ あははっ！



シーザー

では、さっそく楽しいチョコチョコダンスを……！



シーザー

あっ、痛っ！ おい！ まだ俺の台詞は終わってないぞ！



シオン・ザ・ダークブレット

全員突撃！ 我が援護する！



シーザー

ああもう！ 痛いって！ 卑怯にも遠くから撃つんじゃねえ！



シーザー

え？あれ……



クロエ

捕まえた、シーザー！



ヴィヴィ

逃がしませんわ！



シーザー

ひ、一人を大勢で殴るだと！



シーザー

しかも遠くから狙撃まで！卑怯だぞ！



シオン・ザ・ダークブレット

分かっていないな。ダークブレットはもともと、手段も方法も選ばないのだ！



シーザー

ぐあああっ!!



シオン・ザ・ダークブレット

おやおや～。この程度で大口を叩くとはな。



シオン・ザ・ダークブレット

ヴィヴィ、クロエ！ すぐアイシアを捕まえに行くぞ！



ヴィヴィ

分かりましたわ！ 姉さん！



クロエ

うん！ すぐ行こう！



アイシア

何よ？ シーザーのやつ、あれだけ格好つけておいて、全然持ちこたえられてないじゃない。



アイシア

ああもう！ 私があんなやつを信じたなんて!!

エルフ秘書

会長、どうなさいますか？



アイシア

どうするって！ 決まってるでしょ！ 警備を呼びなさい！ 全員よ!!



アイシア

何が何でも止めるの！ 絶対に!! 止められなかったら全員クビよ、クビ!!

エルフ秘書

はい！ 承知しました！

エルフ秘書

あー、フロストノヴァの全警備員に通達します。

エルフ秘書

全警備隊は会長室に集結し、侵入者を阻止してください！

エルフ秘書

繰り返します。警備隊は会長室に集結し、侵入者を阻止してください！ 以上！



アイシア

ねえ！ 私は脱出するから、車を用意しておきなさい！

エルフ秘書

すでに準備しております！ 一階裏口で車両が待機中です！



シオン・ザ・ダークブレット

アイシア！ 我らが来たぞ!!



ヴィヴィ

エルフ会長！ 穏便に済ませたいなら、銀石公をお返しなさいませ！



クロエ

え？ どこへそんなに急いで行くつもり？



クロエ

あきらめなよ！ 上がってくる途中で、ここにつながる非常階段は全部壊してきたから。



アイシア

こ、こいつら本当に!!

警備チーム長

会長！ 警備隊を率いて到着しました！



アイシア

今すぐあいつらを止めなさい！



ヴィヴィ

そこをお退きなさいませ！



クロエ

ほんとにこいつら……！ 全員、週末農場送りにしてやる！

警備チーム長

全員止める！ クビになりたくなければ止めるんだ！



アイシア

全員、テイザーガンを出しなさい！

システム

ライカ様の協力により誕生した『ライカ・ノヴァ・テイザーガン-2000』！

システム

フロストノヴァの技術を結集した精霊充電式モデル！

システム

使い捨てながら、瞬間的に15000ボルトの電力を……！



アイシア

ああもう！ この馬鹿ども！ いいから撃ちなさい！

エルフ警備員

え？ ですが、これを撃つ前には必ず広告をしると……!!



アイシア

今それを気にしてる場合なの?!

警備チーム長

くっ、会話中なのに撃つとは!!



シオン・ザ・ダークブレット

皆、よく聞け！ まもなく鎮圧班が来るぞ！



シオン・ザ・ダークブレット

穩便に済ませたいなら、おとなしく投降しろ！

警備チーム長

ち、鎮圧班が来るだと？



アジア

おい！あんたたち、しっかりしなさい！



アジア

鎮圧班がどうやってフロストノヴァを捜索するのよ？ 令状もなしに、そんなことできるわけないでしょ！



アジア

全社員、テイザーガンを構えなさい！



アジア

全員で同時に撃てば、あいつらに何ができるっていうの？



アジア

あんたたちこそ、おとなしく投降しなさい！



シオン・ザ・ダークブレット

ちっ、ハッターリでは駄目か？



クロエ

ど、どうするの、姉さん？



シオン・ザ・ダークブレット

全員がテイザーガンで武装しているとは思わなかったぞ！



アイシア

これを食らえば、幽霊も精霊も平等にビビり散らすわよ!!



アイシア

おとなしく頭を床にこすりつけて、手が足になるまで謝りなさい！ ははっ！



ネル（ブチグレ）

ヴィヴィさん！ シオンさん！ そこにいらっしゃいますか？

教主

ネル！ こっちだよ！ こっち！



アイシア

な、何？ この声は教主？



ヴィヴィ

教主様～?!



シオン・ザ・ダークブレット

教主！ 教主が来たのか！



シオン・ザ・ダークブレット

ナイスタイミング！ 教主、信じていたぞ！

教主

シオン、ヴィヴィ、クロエ！ここにいたんだね！



クロエ

教主の顔を見て、こんなにほっとするの久しぶりかも！



アイシア

ううっ、よりによって教主が現れるなんて!!



ネル（ブチギレ）

アイシアさん！いったいこれは何のつもりですか！



ネル（ブチギレ）

教団に手を出すだけでは飽き足らず、銀石公まで盗んでいくなんて!!

教主

アイシア、もう終わりだよ。

教主

何をしようとしていたのかは分からないけど、まずは話をしよう。



アイシア

うっ……ここで諦めるわけにはいかないのに!!



アイシア

だからって、教主をテイザーガンでビリビリにするわけにもいかないじゃない！



ヴィヴィ

エルフ会長！まずは銀石公をお返しなさいませ！



ヴィヴィ

教主様のおっしゃる通り、わたくしもこれ以上ことを大きくしたくはありませんわ。



ヴィヴィ

銀石公だけ返してくだされば、なかったことにして引き下がりますわ！

教主

アイシア、いったいどうしてこんなことをするんだ？

教主

お金なら十分にあるじゃないか！ どうしてわざわざこんな騒ぎを起こしたの？



アイシア

くっ……ううっ……



アイシア

私が、たかが金のためにこんなことをしてると思うの？



アイシア

消してしまいたいよ！ 完全に消してしまいたいよ！



アイシア

あの忌々しいメロンのやつを、モナティウムから消してしまいたいよ！



アイシア

何をしても一位になれない気持ちが、あんたたちに分かる?!



アイシア

正直、一回くらい勝たせてくれてもいいじゃない？ 他の誰でもなく、たかが果物から生まれた精霊ごときに、私が負けなきゃいけないわけ?!

教主

君がメロナに勝ちたいと思っているのは分かった。でも、それが銀石公を盗んだことと何の関係があるの？



アイシア

そ、それは……！ うっ……



アイシア

どうしよう。言ってもいいのかな？

???

どうやら、ここまでみたいだね。

???

やっぱり、私が多くを期待しすぎていたのかな？



アイシア

え、ええ……？ ううっ……！

教主

アイシア？



ヴィヴィ

捕まえましたわ！ 何がどうなっているのかは分かりませんが、銀石公を取り戻しましたわ！



クロエ

え、え？ 何これ。霧……？



クロエ

急に空気が変になった！



クロエ

寒い……全身がぞわぞわする……



シオン・ザ・ダークブレット

この感覚、何か……覚えがある。



シオン・ザ・ダークブレット

いつか感じたことがある。いつか……昔……記憶の中で……

教主

みんな、顔色が悪いよ？ どうしてそんなに固まってるの？

エルフ警備員

……あ……ああ……！

エルフ秘書

……う……ううう……

警備チーム長

……あ、あ……！



シオン・ザ・ダークブレット

……!!



ヴィヴィ

こ、これは何ですの～!! どうして皆さま倒れているんですの？

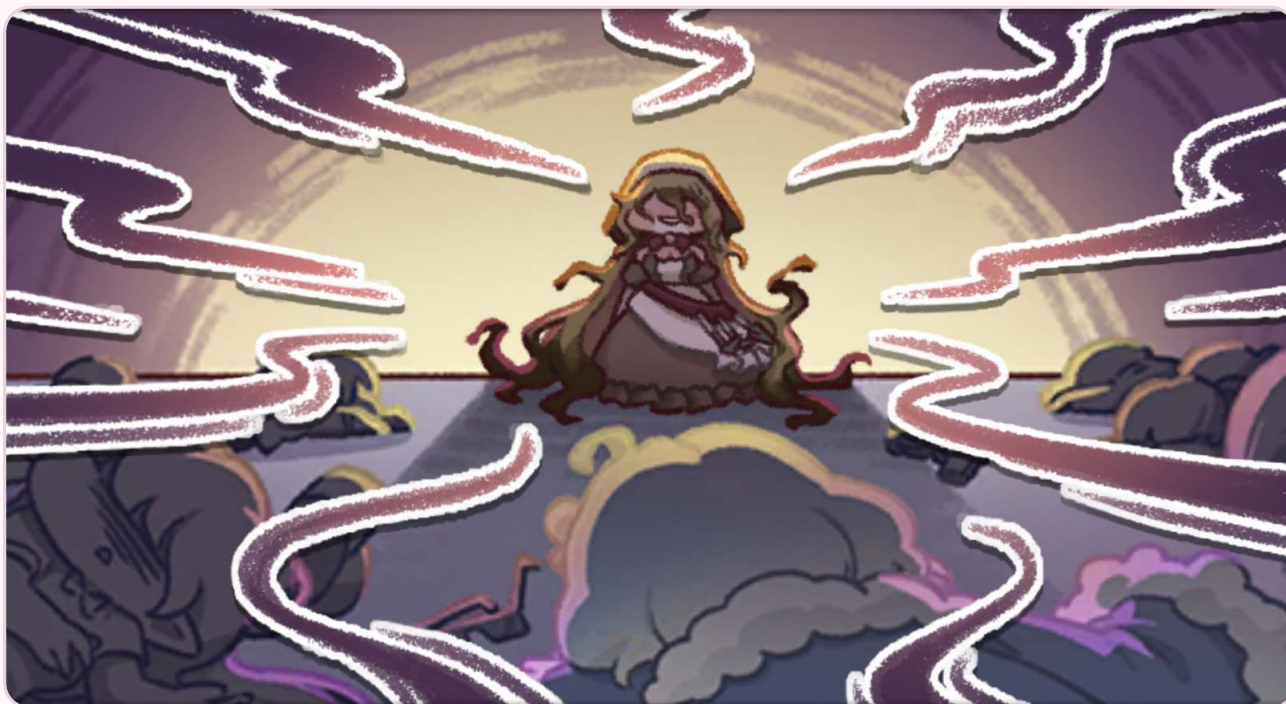


クロエ

何が起きてるの?!

EPISODE  
13

## 第13章 最後の導き手



???

ごめんね。別に、こんな状況で顔を合わせたかったわけじゃないんだけど。

???

ずいぶん見苦しい光景になってしまったね。

???

簡単な用事だったから、静かに片づけられると思っていたんだけど……

???

でも、どうやら……私が使い走りを選び間違えたみたいだ。

教主

な、何だ？ お前は誰だ……？



ネル (プチギレ)

教主様……どういわけか、覚えのある感じがします。

教主

覚えがある？



ネル (プチギレ)

何か……この濃い霧の中をさまようような……



ネル (プチギレ)

息苦しくて重い霧に押しつぶされて、際限なく眠くなるような、この感覚……



ネル (プチギレ)

私がさっき眠りに落ちた時……！ あの時の感覚と同じです……！

教主

何だって？ おい！ お前……正体は何なんだ……？

???

さあ、私は何だろうね？

???

特に、そういうことを考えたことはなかった気がする。

???

君が初めてだよ。私にそんな関心を持ったやつは。

???

面白い。

???

私も、自分自身について悩むということをしてみることになるんだね。



ネル (プチギレ)

あ、あなた！ 戯言はやめて、答えなさい！

???

ふむ。

???

私は……言うなれば……

???

誰もが向き合いたくない真実、とでも言えばいいのかな？

???

いつか、私と出会うことになるのかな……

???

わざわざ口をつぐんで、考えの向こう側へ押しやってしまう……

???

そういう存在なのかもしれないね。



シオン・ザ・ダークブレット

謎かけみたいなことはやめて、簡単に言え！



クロエ

そうだよ。せめて名前くらい名乗りなよ！



ヴィヴィ

この気配……感じたことがありますわ……これは……この感覚は……



ヴィヴィ

あの者……まさか……！

???

君たち……どうして私を知らないふりするの？

???

君たち姉妹は、少なくとも一度は私と会っているはずだけど？



クロエ

何だって……？

???

それに教主。ここに集まった者たちの中で……君は私を知らないといけない立場だよ。

???

私たち、なじみのある関係じゃないか。



クロエ

そ、それどういう意味?!



クロエ

教主？ あいつと知り合いなの？

教主

ち、違う！ 初めて見る相手だよ！

???

ふふ。

???

私は……人間がこの世界にもたらした観念。

???

最初に生まれた幽霊。

???

そして……すべてを最後へ導く幽霊。

教主

え……？ 人間がもたらした観念？ 最初に生まれた幽霊だって？

???

君たちが冗談みたいに口にする、「週末農場」の主。

建前

名前は……何がいいかな？

本音

いつかエルフたちの夢の中で……素敵な名前を見た気がする。

建前

ニフェル。

本音

うん、それにしよう。気に入った。

ニフェル

私は……ニフェル。死を司る幽霊だよ。

教主

死の幽霊……?! そんなものがエアリアスにいるっていうの？



ヴィヴィ

気のせいでは……ありませんでしたわ……あなたの周りから感じるこの気配……わたくしが覚えているものと同じ……！

ニフェル

そうだよ、ヴィヴィ。君はまだ、私のことをよく覚えているみたいだね。

ニフェル

その卵を私に渡して。それは君が持っているべきものじゃない。



クロエ

ねえ!! 銀石ちゃんに何するつもりなの!!



シオン・ザ・ダークブレット

全員でかかれ！ 我が援護する！



クロエ

分かった、姉さん！



ヴィヴィ

待って！ だめですわ！ 止まりなさい！ 近づいてはなりません！



シオン・ザ・ダークブレット

うあ……ああ？



クロエ

シ、シオン姉さん？



クロエ

あんた!! 姉さんに何したの!!



クロエ

うう……あああ……



ヴィヴィ

シオン……！クロエ……！う、うああ……!!!

ニフェル

大丈夫。うるさかったから、ただ眠らせてただけだよ。

ニフェル

わざわざこんな些細なことで、これ以上面倒になりたくなかったからね。

教主

まさか……お前がやったの？

教主

妖精王国で妖精たちが眠ってしまったこと……ネルが急に眠りに落ちたこと……全部、お前が起こした事件なの?!

ニフェル

大丈夫。たいしたことじゃないよ。妖精たちは少し……私の影響を受けやすいみたいなんだ。私がただ近くに來ただけなのに、すぐ眠りに落ちたりしてね。

ニフェル

昔もそうだった。君たちの教団の地下室で眠っている者たち……  
まあ、突き詰めれば、あれも私が原因ではあるから。



ネル (ブチギレ)

何ですって……?!



ネル (ブチギレ)

へ、変なことを言わないでください!



ネル (ブチギレ)

あれはあなたのせいではなく、世界樹様に呼ばれて夢に落ちたんです!

ニフェル

……本当にそうだと思う?

ニフェル

うん、じゃあそう思っていればいいよ。妖精たちはいつもそういうふうだから。



ネル (ブチギレ)

今、誰を馬鹿にしているんですか?!



ネル (ブチギレ)

くああっ——! もう我慢できません!



ヴィヴィ

あっ、だめですわ! 司祭長——!!



ヴィヴィ(本音)

あの者は……!! あの者は、わたくしたちがどうにかできる相手ではありませんわ……!!



ネル (ブチギレ)

はああっ!!



教主

ネ、ネル!!



ネル (プチギレ)

ちっ……! 幽霊だから、そのまま避けたんですか?

ニフェル

おや? 君……眠らないんだね? 何かが守っている。



ネル (プチギレ)

何ですって?

ニフェル

教主……君のせいだね?

教主

私のせいだって…?

ニフェル

この気分、本当に久しぶりだ。面白いね。

ニフェル

あの子が、私を無視していたやり方に似ている。

ニフェル

この幼い姉妹たちが私を見つめられないように、いつも目を覆ってくれていたんだ。

教主

あの子って……誰のこと？

教主

まさか……

ニフェル

教主、ずるいよ。もう答えを知っているんじゃないか。

ニフェル

幼稚に、私の口から言わせようとしているの？

教主

世界樹……？

ニフェル

エーダル。



ネル（ブチギレ）

世界樹様の真名を、近所の犬でも呼ぶみたいに口にしないでください!!

ニフェル

名前は名前でしかないよ。儂く付けられて、いつか忘れられる、ただのひとつの言葉にすぎない。



ネル (プチギレ)

何ですって？ 言いたい放題ですね?!

ニフェル

ごめんね、妖精。どうやら君を落ち着かせるには、優雅な方法では無理みたいだ。



ネル (プチギレ)

ぐへっ！

教主

ううっ、ネルまで……？

ニフェル

さあ、ヴィヴィ。今度は君の番だよ。早くその卵を私に渡して。

ニフェル

君に選択権はない。君たち姉妹が私の意志に逆らうのは……一度で十分じゃない？

ニフェル

あの時は、私が一度見逃してあげたんだよ？ 君の母親があまりに頼むものだから……ちょっと気まぐれを起こしただけ。



ヴィヴィ

お母様が……あなたに頼んだと……？

ニフェル

そう。あの子はこの世界を作って、私も作った存在だからね……  
そのくらいはしてあげてもいいかな、と思ったんだ。



ヴィヴィ

ううっ……わたくしは……うう……！



ヴィヴィ(本音)

銀石公を、このまま渡すわけには……  
でも……わたくしに、あの者をどうすれば……？

教主

だめだ。持っていかせない。



ヴィヴィ

きょ、教主様……？

教主

その卵は……教団の保護下にある。ダーヤが託して、ヴィヴィが世話をしている卵だ。  
お前が奪ったからって、ただ渡すわけにはいかない！

ニフェル

おや、教主。命が惜しくないの？

EPISODE  
14

## 第14章 新たな基準線

教主

い、命が惜しくないのかって？  
本当にできるの？ 君は……本当に誰でも死なせることができるの……？ 私も？

ニフェル

うふふ、冗談だよ、教主。  
私がどうして君を死なせるの。

ニフェル

でも、できることはできるよ。

教主

何だって?!

ニフェル

私が初めて目を覚ました時、エーダルは私をととても怖がっていた。

ニフェル

私が目を覚ました瞬間、最後にはあの子も……私の小さな農場へ来なければならない運命になってしまったから。

ニフェル

でも、心配しないで。  
私はわざわざ面倒なことをして……一人ひとり迎えに行ったりはしない。

ニフェル

どうせ……永劫の時がかかっても、最後には君たちの方から私を訪ねてくるんだから。どうしてそんなことをする必要が  
あるの？

教主

こいつ、人間が持ち込んだ死の観念だからなのかな。  
言っていることが、ものすごく聞き覚えのあるものを感じる……  
じゃあ……じゃあ、どうしてこんなことをしたんだ？

教主

どうして卵を持っていこうとするんだ?!

ニフェル

不要に感じたから。



ヴィヴィ

不要ですって？ 銀石公を何だと思っていますの?! 銀石公は物などではありませんわ！

ニフェル

悪いけど、ヴィヴィ。  
君はその卵が衰れだとは思わないの？



ヴィヴィ

な、何ですって……？

ニフェル

世界の中心にそびえ立つ、君の母親を見てごらん。  
少しずつ弱まりながら、みっともなく命をつないでいるじゃないか。

ニフェル

エーダルが倒れたら、君たち全員どうなると思う？



ヴィヴィ

そ、それは……！

ニフェル

最近、何が原因なのかは分からないけど……  
不要な「新しい者たち」が、急に生まれ始めた。  
少しずつ気にはなっていたけれど、もうこれ以上放っておくわけにはいかないみたい。

ニフェル

気の毒じゃないか。  
どうせ、そう長くもたずに崩れて消える者たちなんだろう？

教主

精霊たちのことを言っているの？ 最近、新しく生まれ始めた精霊たちのこと？

ニフェル

そう。  
これ以上は駄目。  
新しく何かが生まれるのは……面倒なんだ。

教主

君……  
君、本当に気の毒だと思ってやっているわけじゃないよね？  
声から、少しも憐れみを感じない。

ニフェル

ふむ。  
それもそうだね。  
私も、あのバラの精霊みたいに演技の練習でもするべきなのかな？

ニフェル

ごめん。私、こういうやり取りには慣れていなくて。

教主

世界樹が弱っているのは事実だけど……まだ時間はある！  
私たちは世界樹を蘇らせようと努力しているんだ！

ニフェル

……………  
蘇らせる……？

ニフェル

教主。  
まるで世界樹が死んだみたいな言い方をするんだね？

教主

え、ええ？

ニフェル

それ……変な言い方だね？  
一度、調べてみる必要があるそうだ。

教主

このニフェルというやつ……世界樹の状態については、ちゃんと知らなかったのか？

ニフェル

表向きは世界がまともに回っていたから、私も特に気にしていなかったけれど……  
あの肥大した力の残滓のせいで……主を失ったまま、世界が維持されていたのかな？

教主

こいつ……！ 何をしでかすか分からない。  
ここで見せた力もそうだし、自分の言葉にハツタリを混ぜる性格ではなさそうだ……  
ヤドリギがかるうじてエアリアスを維持していると知られたら……本当に大変なことになるかもしれない！  
ち、違う!! 世界樹はまだ生きている！  
私の言い間違いだ！ 急いで話そうとして、言葉が変になっただけなんだ！

ニフェル

ふうん。  
やっぱりそうなんだ？  
言い間違い……なんだね？



ヴィヴィ

そ、そうですわ！ 教主様は、時々気持ちが急いで妙なことを口走るのですわ！



ヴィヴィ

わたくしがどうかして、教主様の言葉に信ぴょう性が出るよう助けなければ……！  
以前も、妖精女王に冷たい失言をして、大いに傷つけたことがありましたわ！

教主

……

ううっ……ヴィヴィのせいで起きたことではあるけど……で、でも……私を助けようとして言ってくれてるんだから……

ニフェル

まあ、分かったよ。  
どうせ世界樹、あの大したやつも、いつかは衰えて消えるんだから……  
もう死んでいるのか、あとで死ぬのか……大した違いはないしね。



ヴィヴィ

そ、そうですわ。いつか死ぬお母様なのですわ。

教主

ふう……ひとまず注意はそらせた。  
それはそうと、ニフェル……  
卵を持って行って……どうするつもりなの？

ニフェル

ん？

教主

卵を持っていこうとする君の理屈は、少しおかしく感じる。  
すべてが死ぬ時を待つと言っておきながら……  
どうして今、連れていこうとするんだ？



ヴィヴィ

そうですね！ どうせ誰か一人が増えて生まれたところで、あなたが気にするようには思えませんわ。  
いったい本当の目的は何なのです？  
あなたにとっては取るに足らない卵ひとつでしょうに、それを持って行って何の意味があるというのですか！

ニフェル

ヴィヴィ。  
君は、自分が特別だと思っているの？



ヴィヴィ

な、何ですか？

ニフェル

その卵は取るに足らなくて、君は特別だと思っているの？



ヴィヴィ

そ、そういう意味では……！

ニフェル

君が、世界樹が最初に生み出した直系だから？  
私が定めた規則から、一度外れたから？  
この世のすべての不幸を、自分が背負っていると思っているから……？  
まあ……君の立場からすれば、そう見えるのかもしれないね。



ヴィヴィ

いえ、わたくしは……

ニフェル

では、教主はどう？  
教主は、自分が特別だと思っている？  
エーリアスに落ちてきた人間だから？  
使徒たちを導く教団の主だから？  
エーリアスで起こる出来事のすべてに責任を負っているから……？

教主

.....

特別じゃない。  
私は、ただの平凡な人間だよ。

ニフェル

そう。やっぱり人間だから、よく分かっているんだね。  
虫の死も、猫の死も、妖精の死も。  
世界樹の死でさえも。  
すべての死は同じ。  
そこに価値も、意味もない。  
すべての死は平等なんだ。

ニフェル

いつか消えてしまうこの世界でさえも。  
そして、その世界を踏みしめている私自身の死でさえも。

ニフェル

勘違いしないでほしい。  
私は君たちに猶予を与えているんだ。  
君たちに許された時間の間は、平穩に放っておいてあげる。  
最近、存在を与えられて生まれた者たちにも、特に手は出さない。  
だけど……

ニフェル

今からは違う。私が直接介入することにしたから。  
今、この瞬間から、ひとつの基準線ができたんだ。

ニフェル

どう？ これなら、かなり合理的な交渉じゃない？

教主

そ、そういうのを交渉とは言わない！

ニフェル

私は君たちに線を引いて、整理をしに来た。  
私は、私のやるべきことをしようとしているだけだよ。

ニフェル

本来なら、すべてが止まっているはずの世界に、次々と新しいものが生まれると、妙な気分になるんだ。  
何というか。  
私の領分を侵されているように感じる、というのかな。  
だから、ヴィヴィ……

ニフェル

その卵を渡して。



ヴィヴィ

だ、だめ！連れていかないで！銀石公を連れていかないで!!

ニフェル

そもそも……君が「銀」という存在の居場所を奪ったせいで、生まれてこられなかった子なんだよ。  
一種の埋め合わせのつもりなの？ 哀れだね、ヴィヴィ。



ヴィヴィ

ああ……違う……！そんなつもりで、銀の名をまとったわけではありませんわ……！  
わたくしはただ……そんなことになるなんて、知らなかっただけで……！

教主

ヴィヴィから離れろ、ニフェル！

ニフェル

いや、それはできないね。

教主

何をしてるんだ!!



ヴィヴィ

え……え?! だめ! 何をしているの!!  
銀石公に何をするつもりですの!!!  
許しませんわ!! 絶対に許しません!!!  
あなたが何者だろうと構いませんわ! 殺してやりますわ!!!

ニフェル

へえ。  
今の言葉、面白いね。

